



MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユー
ラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨー
ロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE,
ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV,
MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK,

SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ,
GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

— 国際調査報告 (条約第 21 条(3))

明 細 書

発明の名称：動物用トイレ

技術分野

[0001] 本発明は、動物用トイレに関する。

背景技術

[0002] 従来、動物用トイレとして、特許文献１に示すように、室内で飼育される猫等の動物が使用するものが知られている。この動物用トイレは、動物が出入りするための開口及び尿が通過する液通過性の底面部を有する上部容器と、底面部を通過した尿を吸収する吸液シートを配置する配置容器を収容する収容部を有する下部容器と、動物の出入り方向を規制するためのカバーとを備えている。上部容器の底面部における尿通過領域には、粒状物が撒設される。

[0003] カバーは、略矩形状の周縁枠の三方に壁体が立設されると共に、残り一方に動物の出入り口を有する平面視略コ字状箱体であり、上部容器に着脱自在に取り付けられる。周縁枠は、上部容器の上端周縁と略同じ大きさであり、その側部には上部容器の上端部に嵌合するための嵌合爪が内側に突出して形成されている。

先行技術文献

特許文献

[0004] 特許文献１：特開２００９－１１１８１号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0005] 特許文献１に記載された動物用トイレでは、カバー側に設けられた内側に突出する嵌合爪を上部容器の上端部に引っ掛けることによってカバーと上部容器との嵌合を行うため、カバーと上部容器との嵌合状態の確認が外部からしづらかった。

[0006] 本発明は、上記のような問題に鑑みてなされたものであって、その目的と

するところは、外部から嵌合状態を確認しやすい動物用トイレを提供することにある。

課題を解決するための手段

[0007] 上記目的を達成するための主たる発明は、前後方向、左右方向、及び高さ方向を備え、動物が出入りするための開口部を備えたカバーと、尿が通過する複数の穴が設けられた上容器と、下容器とを有し、前記上容器の縁部は、前記下容器の縁部上に位置し、前記カバーの縁部は、前記上容器の前記縁部よりも外側に位置し、前記上容器の前記縁部よりも下方において、前記カバーの前記縁部に穴が設けられており、前記上容器の前記縁部よりも下方において、前記下容器に、前記穴に挿入される突部が設けられており、前記左右方向において、前記突部は、前記上容器よりも外側に突出していることを特徴とする動物用トイレである。本発明の他の特徴については、本明細書及び添付図面の記載により明らかにする。

発明の効果

[0008] 本発明によれば、外部から嵌合状態を確認しやすくなる。

図面の簡単な説明

[0009] [図1]本発明の実施形態に係る動物用トイレの一構成例を示す斜視図である。

[図2]動物用トイレの分解説明図である。

[図3]図3Aは図1のIII A－III A線断面図であり、図3Bは図3AのIIIB部拡大図である。

[図4]カバーと下容器との嵌合部分周辺の拡大図であり、図4Aはカバーと下容器との嵌合前の状態を示し、図4Bはカバーと下容器との嵌合後の状態を示している。

発明を実施するための形態

[0010] 本明細書及び添付図面の記載により、少なくとも以下の事項が明らかとなる。

[0011] 前後方向、左右方向、及び高さ方向を備え、動物が出入りするための開口

部を備えたカバーと、尿が通過する複数の穴が設けられた上容器と、下容器とを有し、前記上容器の縁部は、前記下容器の縁部上に位置し、前記カバーの縁部は、前記上容器の前記縁部よりも外側に位置し、前記上容器の前記縁部よりも下方において、前記カバーの前記縁部に穴が設けられており、前記上容器の前記縁部よりも下方において、前記下容器に、前記穴に挿入される突部が設けられており、前記左右方向において、前記突部は、前記上容器よりも外側に突出している動物用トイレが明らかとなる。これにより、前記カバーと前記下容器との嵌合状態が外部から視認することが容易になる。

[0012] かかる動物用トイレであって、前記前後方向における、前記突部の設けられている位置において、前記上容器の前記左右方向の長さが、前記下容器の前記左右方向の長さよりも小さいことが望ましい。これにより、前記カバーを取り外す際に前記カバーの前記縁部が前記上容器の前記縁部に引っ掛かってしまうことを抑制できる。

[0013] かかる動物用トイレであって、前記前後方向における、前記突部の設けられている位置において、前記上容器の前記縁部に切り欠き部が設けられていることが望ましい。これにより、前記切り欠き部に指等を掛けることが可能となるため、前記上容器を前記下容器から取り外しやすくなる。

[0014] かかる動物用トイレであって、前記左右方向において、前記突部は、前記下容器の前記縁部から外側に突出していることが望ましい。これにより、前記カバーを組み付ける際に前記突部の位置を確認することが容易になると共に、前記カバーと前記下容器との嵌合状態の視認もよりしやすくなる。

[0015] かかる動物用トイレであって、前記突部の断面形状は、楕円であり、前記楕円の前記前後方向の大きさは、前記楕円の前記高さ方向の大きさよりも大きいことが望ましい。これにより、嵌合部分を持って上方向に持ち上げる際に、力がもっとも集中する前記突部の前記前後方向の領域が増えるため、前記穴から前記突部が外れてしまうことを抑制することができる。

[0016] かかる動物用トイレであって、前記楕円の上部の曲率は、前記楕円の下部の曲率よりも大きいことが望ましい。これにより、前記楕円の前記下部にお

いて前記カバーとの接触領域が広くなり、嵌合部分を持って上方向に持ち上げた際にかかる力を均一に受けることができる。

[0017] かかる動物用トイレであって、前記穴は、切り欠きと繋がっていることが望ましい。これにより、前記穴に前記突部を挿入する際において前記穴が撓みやすくなるため、前記突部を前記穴に挿入しやすい。

[0018] かかる動物用トイレであって、前記切り欠きは、前記穴の上部に設けられ、前記切り欠きの上端は、前記上容器の前記縁部よりも下方に位置することが望ましい。これにより、前記カバーと前記下容器とを嵌合した状態において左右方向に前記一对の切り欠きを見た場合に、前記一对の切り欠きを介して前記上容器が見えることがないため、前記穴と前記突部との嵌合状態がより分かりやすくなる。

[0019] かかる動物用トイレであって、前記穴に、前記突部が挿入された状態において、前記突部の輪郭が動物の顔の輪郭を表し、一对の前記切り欠きが、前記動物の耳を表すことが望ましい。これにより、前記穴と前記突部との嵌合状態を動物の形状によって視認することができるため、前記カバーと前記下容器との嵌合状態の確認がより容易になる。

[0020] ===実施形態===

本発明の実施形態にかかる動物用トイレは、例えば室内で飼われる猫等の動物が使用するものである。本明細書中における「動物」とは、猫、犬、ウサギ、ハムスター等のいわゆるペットやトラ、ライオンの赤ちゃん等も含む。

[0021] 例えば、動物が猫である場合における動物用トイレの使用方法としては次の通りである。猫が動物用トイレ内に入り、例えば猫砂やサンド等と呼ばれる排泄物処理材の上から排尿や排便をする。その後、猫は排泄物処理材を足でかいて排泄物を隠す。飼い主等は、排泄物で汚れた部分の排泄物処理材を排泄物と共に動物用トイレ内から取り除き、取り除いた分だけ新しい排泄物処理材を補充する。

[0022] <動物用トイレ1の全体構成>

動物用トイレ 1 の全体構成について、図 1 及び図 2 を参照して説明する。

[0023] 図 1 は、本発明の実施形態に係る動物用トイレ 1 の一構成例を示す斜視図である。図 2 は、動物用トイレ 1 の分解説明図である。

[0024] 動物用トイレ 1 は、例えば室内の床等の上に設置されて使用されるものであり、前後方向、左右方向、及び高さ方向を備える。本実施形態では、動物用トイレ 1 は、前後方向に長手方向を有し、左右方向に短手方向を有する。なお、前後方向、左右方向、及び高さ方向は、互いに直交する方向である。以下の説明において、高さ方向のうち動物用トイレ 1 の設置面側を下方向とし、その反対側を上方向とする。

[0025] 動物用トイレ 1 は、上容器 2、トレイ 3、カバー 4、及び下容器 5 の 4 つの部材から構成されている。上容器 2、トレイ 3、カバー 4、及び下容器 5 は、例えばポリエチレン（PE）、ポリプロピレン（PP）、ポリエチレンテレフタレート（PET）等の樹脂を成形加工してなる。

[0026] 動物用トイレ 1 の組み付け方法は次の通りである。図 2 に示すように、下容器 5 の上方から上容器 2 を組み付ける。そして、上容器 2 が組み付けられた下容器 5 に対して上容器 2 の上方からカバー 4 を組み付ける。トレイ 3 は、下容器 5 に対して前後方向にスライド可能であり、下容器 5 内に收容される。以下の説明において、前後方向のうちトレイ 3 を下容器 5 内に收容する方向を後方向とし、トレイ 3 を下容器 5 内から引き出す方向を前方向とする。

[0027] 上容器 2 は、上方が開口した箱状の部材であり、尿が通過する複数の穴 210 が設けられた底面 22 と、底面 22 の周縁から上方に向かって立設した側壁部 23 と、側壁部 23 の上方端を下方に向かって折り返して形成された縁部 24 とを有している。複数の穴 210 は尿通過部 21 を構成し、当該尿通過部 21 上には排泄物処理材が設置される。

[0028] 図 2 に示すように、縁部 24 には、前後方向の中央かつ左右方向に対向する位置に、切り欠き部 240 がそれぞれ形成されている。これにより、飼い主等が切り欠き部 240 に指を掛けることが可能となるため、上容器 2 を下

容器 5 に組み付けたり、上容器 2 を下容器 5 から取り外したりしやすくなり作業性が向上する。なお、上容器 2 において、必ずしも切り欠き部 240 が形成されている必要はない。図 2 では、2 つの切り欠き部 240 のうち一方の切り欠き部 240 のみを示している。

[0029] トレイ 3 は、高さ方向（上下方向）の厚さが薄く形成された部材であり、上方が開口した吸収体設置部 31 と、下容器 5 から出し入れするための取っ手 32 とを有している。排泄物処理材の上から排泄された尿は、上容器 2 の複数の穴 210（尿通過部 21）を通過して、尿通過部 21 よりも下方に設けられた吸収体設置部 31 に設置された吸収体に吸収される。吸収体は、例えば高分子吸収材を含有した吸収シートである。

[0030] 取っ手 32 は、図 2 に示すように、前後方向の両端にそれぞれ形成されており、トレイ 3 を前後逆さまにして使用することも可能である。なお、図 2 において吸収体設置部 31 を破線で示している。

[0031] カバー 4 は、動物が出入りするための開口部 41 と、開口部 41 の左右方向の両側にそれぞれ設けられた側壁部 42 と、開口部 41 の前方に設けられた前方壁部 43 と、開口部 41 の後方に設けられた後方壁部 44 と、側壁部 42、前方壁部 43、及び後方壁部 44 の下端に設けられた縁部 45 とを有している。本実施形態では、側壁部 42、前方壁部 43、後方壁部 44、及び縁部 45 は一体に形成されている。また、カバー 4 は、底面を有しておらず、高さ方向（上下方向）に貫通している。

[0032] 開口部 41 は、尿通過部 21 よりも上方に設けられている。図 1 及び図 2 に示すように、本実施形態では、側壁部 42 の上端が後方から前方に向かって次第に低くなるように形成されている。

[0033] 図 1 に示すように、側壁部 42 及び後方壁部 44 は、上端が内側（開口部 41 側）かつ下方向に折り込まれた折り込み部 4b を有している。当該折り込み部 4b は、前方壁部 43 の上方に面した部分から連続して形成されている。

[0034] 縁部 45 は、下方に向かって延出するカバー側嵌合部 451 を前後方向の

中央かつ左右方向に対向する位置にそれぞれ有している。カバー側嵌合部 4 5 1 には、穴 4 6 が形成されている。なお、この穴 4 6 の具体的な構成については、後述することとする。

[0035] 下容器 5 は、上容器 2 と同様に上方が開口した箱状の部材であり、底面 5 1 と、底面 5 1 の左右方向の両端から上方に立設した側壁部 5 2 と、底面 5 1 の前方端から上方に立設した前方壁部 5 4 と、底面 5 1 の後方端から上方に立設した後方壁部 5 5 と、側壁部 5 2、前方壁部 5 4、及び後方壁部 5 5 の上方端を下方に向かって折り返して形成された縁部 5 3 とを有している。また、下容器 5 の内部には、トレイ 3 を収容するための収容部 5 7 が形成されている。なお、図 2 において、収容部 5 7 を破線で示している。

[0036] 前方壁部 5 4 には、図 2 に示すように、収容部 5 7 に対してトレイ 3 を出し入れするための出入り口 5 4 a が形成されている。また、図 1 に示すように、前方壁部 5 4 には、トレイ 3 の取っ手 3 2 に手を掛けやすくするための凹部 5 4 b が形成されている。

[0037] 縁部 5 3 は、下方に向かって延出する下容器側嵌合部 5 3 1 を前後方向の中央かつ左右方向に対向する位置にそれぞれ有している。下容器側嵌合部 5 3 1 には、カバー側嵌合部 4 5 1 の穴 4 6 に挿入される突部 5 3 2 が設けられている。カバー 4 と下容器 5 との嵌合は、下容器側嵌合部 5 3 1 の突部 5 3 2 をカバー側嵌合部 4 5 1 の穴 4 6 に挿入することによって行われる。

[0038] また、縁部 5 3 の上方端には、上方に向かって突出した 2 つの突起 5 6 がそれぞれ左右方向に対向する位置に設けられている。上容器 2 を下容器 5 に組み付けた際、これらの突起 5 6 が上容器 2 の縁部 2 4 の形成時に上容器 2 の上方端を折り返すことによって形成された空間内に介在することにより、下容器 5 に対する上容器 2 の左右方向の移動が規制される。

[0039] <カバー 4 と下容器 5 との嵌合部分周辺の構成>

次に、カバー 4 と下容器 5 との嵌合部分周辺の構成について、図 3 A 及び図 3 B ならびに図 4 A 及び図 4 B を参照して説明する。

[0040] 図 3 A は、図 1 の IIIA - IIIA 線断面図であり、図 3 B は、図 3 A の IIIB

部拡大図である。図４Ａ及び図４Ｂは、カバー４と下容器５との嵌合部分周辺の拡大図であり、図４Ａは、カバー４と下容器５との嵌合前の状態を示し、図４Ｂは、カバー４と下容器５との嵌合後の状態を示している。なお、図４Ｂにおいて、上容器２の縁部２４を破線で示している。

[0041] （上容器２、カバー４、及び下容器５の位置関係について）

まず、上容器２、カバー４、及び下容器５の位置関係について、図３Ａ、図３Ｂ、及び図４Ａを参照して説明する。

[0042] 図３Ｂに示すように、上容器２の縁部２４は、上方から下方に向かって外側に広がるように傾斜して形成されている。また、縁部２４は下容器５の縁部５３上に位置している。つまり、上容器２の縁部２４と下容器５の縁部５３とは、高さ方向に沿って並んで位置している。本実施形態では、図４Ａに示すように、縁部２４は、切り欠き部２４０が設けられた部分以外の部分において、下端が下容器５の縁部５３の上端に接触している。

[0043] 下容器５の縁部５３（下容器側嵌合部５３１）に設けられた突部５３２は、上容器２の縁部２４よりも外側に突出している。また、カバー４の縁部４５１は、上容器２の縁部２４よりも外側に位置している。換言すれば、上容器２の縁部２４はカバー４の縁部４５１よりも内側に位置している。本実施形態では、カバー４は、縁部４５１の内側に、下方に向かって延出しかつ縁部４５１に沿って形成された延出部４５２を有しており、縁部４５１と延出部４５２との間に形成された空間４５ａ内に上容器２の縁部２４が介在している。

[0044] カバー４と下容器５との嵌合は、左右方向において上容器２の縁部２４よりも外側に位置している下容器５側の突部５３２を上容器２の縁部２４よりも外側に位置しているカバー４の縁部４５（カバー側嵌合部４５１）に設けられた穴４６に挿入することにより行う。また、穴４６及び突部５３２は、上容器２の縁部２４よりも下方に設けられている。これにより、カバー４と下容器５との嵌合状態を外部から視認することが容易となり、不完全な嵌合状態のまま動物用トイレ１を持ち上げてしまうといった問題を回避すること

ができる。

[0045] また、左右方向において上容器２の縁部２４よりも外側に位置しているカバー４の縁部４５１に設けられた穴４６に対して、下容器５の縁部５３に設けられた突部５３２を左右方向内側から挿入することによりカバー４と下容器５とを嵌合させる。これにより、例えば内側に突出する爪等がカバー４側に設けられている場合のように、爪等が上容器２の縁部２４に引っ掛かってしまい上容器２が下容器５から外れてしまうといった事態を回避することができる。

[0046] またさらに、動物が排尿する尿通過部２１が設けられた上容器２の縁部２４がカバー４の縁部４５１よりも内側に位置すると共に、カバー４との嵌合部分である下容器５の突部５３２が上容器２の縁部２４よりも外側に突出し、嵌合部分である穴４６及び突部５３２が上容器２の縁部２４よりも下方に設けられている。これにより、上容器２の縁部２４に近い場所で動物が排尿してしまった場合でも、嵌合部分を介して尿が動物用トイレ１の外部に漏れ出してしまうといった可能性を低減することができる。

[0047] 本実施形態では、左右方向において、突部５３２は、下容器５の縁部５３から外側に突出している。これにより、カバー４を上容器２及び下容器５に対して組み付ける際に突部５３２の位置を確認することが容易になると共に、カバー４と下容器５との嵌合状態も外部からより視認しやすくなる。なお、突部５３２は、必ずしも下容器５の縁部５３から外側に突出している必要はなく、少なくとも上容器２よりも外側に突出していればよい。

[0048] 前後方向における、突部５３２の設けられている位置において、上容器２の左右方向の長さは下容器５の左右方向の長さよりも小さい。具体的には、図３Ｂに示すように、上容器２の縁部２４の外端は下容器５の縁部５３の外端よりもＧｗだけ左右方向内側に位置している。本実施形態では、上容器２の縁部２４が下方から上方に向かうに連れて左右方向内側に倒れるように傾斜しており、かつ突部５３２の設けられている位置に切り欠き部２４０が設けられていることにより、突部５３２の設けられている位置において上容器

の左右方向の長さが下容器５の左右方向の長さよりも小さくなるように形成している。これにより、カバー４を取り外す際等に、カバー４の縁部４５が上容器２の縁部２４に引っ掛かってしまうことを抑制することができる。

[0049] なお、切り欠き部２４０を形成することにより、突部５３２の設けられている位置において上容器の左右方向の長さが下容器５の左右方向の長さよりも小さくなるようにせずとも、例えば上容器２の縁部２４の左右方向内側への倒れ角（傾斜角）を変更することにより対応することも可能である。また、上容器２の左右方向の長さの下容器５の左右方向の長さとの関係は必ずしもこれに限る必要はなく、少なくとも上容器２の縁部２４が下容器５の縁部５３上に位置していればよい。

[0050] （下容器５の突部５３２の構成）

次に、下容器５の突部５３２の具体的な形状等について、図４Ａを参照して説明する。

[0051] 突部５３２の断面形状は楕円であり、当該楕円の前後方向の大きさＷは高さ方向の大きさＨよりも大きい。すなわち、突部５３２は、前後方向に細長い楕円形状を有している。ここで、嵌合部分（カバー側嵌合部４５１）を持って動物用トイレ１を上方向に持ち上げることを考えた場合、突部５３２の前後方向に亘る部分に力がもっとも集中する。そこで、突部５３２の前後方向の大きさＷを大きくすることにより力を受ける領域が増えるため、穴４６から突部５３２が外れてしまうことを抑制することができる。

[0052] さらに、当該楕円（突部５３２）の上部５３２ａの曲率は、下部５３２ｂの曲率よりも大きい。すなわち、下部５３２ｂは上部５３２ａに比べて平坦であり、換言すれば、上部５３２ａは下部５３２ｂに比べて円弧状に形成されている。このため、嵌合部分（カバー側嵌合部４５１）を持って動物用トイレ１を上方向に持ち上げた場合に力がもっとも集中する下部５３２ｂの曲率が上部５３２ａの曲率よりも小さいため、下部５３２ｂにおけるカバー４との接触領域が広くなり、力を均一に受けることが可能となる。

[0053] なお、突部５３２の形状は必ずしもこれに限る必要はなく、カバー側嵌合

部４５１に設けられた穴４６に挿入可能な形状であり、カバー４と下容器５との嵌合状態が維持できるような形状を有していればよい。

[0054] （カバー４の穴４６の構成）

次に、カバー４の穴４６の具体的な形状等について、図４Ａ及び図４Ｂを参照して説明する。

[0055] 穴４６は、図４Ａに示すように、一对の切り欠き４７とつながっている。このため、穴４６に突部５３２を挿入する際に穴４６が撓みやすくなるため、突部５３２を穴４６に挿入しやすくなる。なお、切り欠き４７は、必ずしも一对である必要はなく、少なくとも１つの切り欠き４７とつながり、突部５３２を穴４６に挿入する際に穴４６が撓みやすくなればよい。また、必ずしも穴４６は切り欠き４７とつながっている必要はなく、少なくとも突部５３２が挿入可能な穴４６がカバー４に設けられていればよい。

[0056] 本実施形態では、図４Ｂに示すように、穴４６に突部５３２が挿入された状態において、突部５３２の輪郭が猫の顔の輪郭を表し、穴４６の上部に設けられた一对の切り欠き４７が猫の耳を表している。つまり、カバー４の穴４６及び一对の切り欠き４７によって動物の顔及び耳が形作られており、そこに動物の顔となる突部５３２が穴４６に嵌合される。これによって、穴４６と突部５３２との嵌合状態を動物の形状によって視認することが可能となり、カバー４と下容器５との嵌合状態の確認がより容易になる。なお、カバー４と下容器５との嵌合状態を確認するにあたり必ずしも動物の形状を表す必要はなく、一目見て嵌合状態が確認できる形状であればよい。

[0057] 図４Ｂに示すように、一对の切り欠き４７は、上端４７ａが上容器２の縁部２４よりも下方に位置している。このため、カバー４と下容器５とを嵌合した状態において左右方向に一对の切り欠き４７を見た場合に一对の切り欠き４７を介して上容器２が見えることがないため、穴４６と突部５３２との嵌合状態が視認しやすくなる。本実施形態では、上容器２だけが異なる色を有することによって、穴４６と突部５３２との嵌合状態がより分かりやすくなっている。なお、一对の切り欠き４７の上端４７ａは必ずしも上容器２の

縁部 2 4 よりも下方に位置している必要はない。

[0058] ===その他===

上記の実施形態は、本発明の理解を容易にするためのものであり、本発明を限定して解釈するためのものではない。本発明は、その趣旨を逸脱することなく、変更、改良され得ると共に、本発明にはその等価物が含まれることは言うまでもない。

[0059] 上記の実施形態では、動物用トイレ 1 は、上容器 2 の複数の穴 2 1 0（尿通過部 2 1）を通過した尿を吸収する吸収体を設置するための吸収体設置部 3 1 をトレイ 3 に設けていたが、これに限らず、例えば下容器 5 に吸収体設置部 3 1 を設けてもよく、用途に応じて適宜変更することが可能である。

符号の説明

[0060] 1…動物用トイレ

2…上容器

4…カバー

5…下容器

2 4, 4 5, 5 3…縁部

4 6…穴

4 7…切り欠き

4 7 a…上端

2 4 0…切り欠き部

5 3 2…突部

請求の範囲

- [請求項1] 前後方向、左右方向、及び高さ方向を備え、
動物が出入りするための開口部を備えたカバーと、尿が通過する複数の穴が設けられた上容器と、下容器とを有し、
前記上容器の縁部は、前記下容器の縁部上に位置し、
前記カバーの縁部は、前記上容器の前記縁部よりも外側に位置し、
前記上容器の前記縁部よりも下方において、前記カバーの前記縁部に穴が設けられており、
前記上容器の前記縁部よりも下方において、前記下容器に、前記穴に挿入される突部が設けられており、
前記左右方向において、前記突部は、前記上容器よりも外側に突出していることを特徴とする動物用トイレ。
- [請求項2] 請求項1に記載の動物用トイレであって、
前記前後方向における、前記突部の設けられている位置において、前記上容器の前記左右方向の長さが、前記下容器の前記左右方向の長さよりも小さいことを特徴とする動物用トイレ。
- [請求項3] 請求項2に記載の動物用トイレであって、
前記前後方向における、前記突部の設けられている位置において、前記上容器の前記縁部に切り欠き部が設けられていることを特徴とする動物用トイレ。
- [請求項4] 請求項1～3のいずれか1項に記載の動物用トイレであって、
前記左右方向において、前記突部は、前記下容器の前記縁部から外側に突出していることを特徴とする動物用トイレ。
- [請求項5] 請求項1～4のいずれか1項に記載の動物用トイレであって、
前記突部の断面形状は、楕円であり、
前記楕円の前記前後方向の大きさは、前記楕円の前記高さ方向の大きさよりも大きいことを特徴とする動物用トイレ。
- [請求項6] 請求項5に記載の動物用トイレであって、

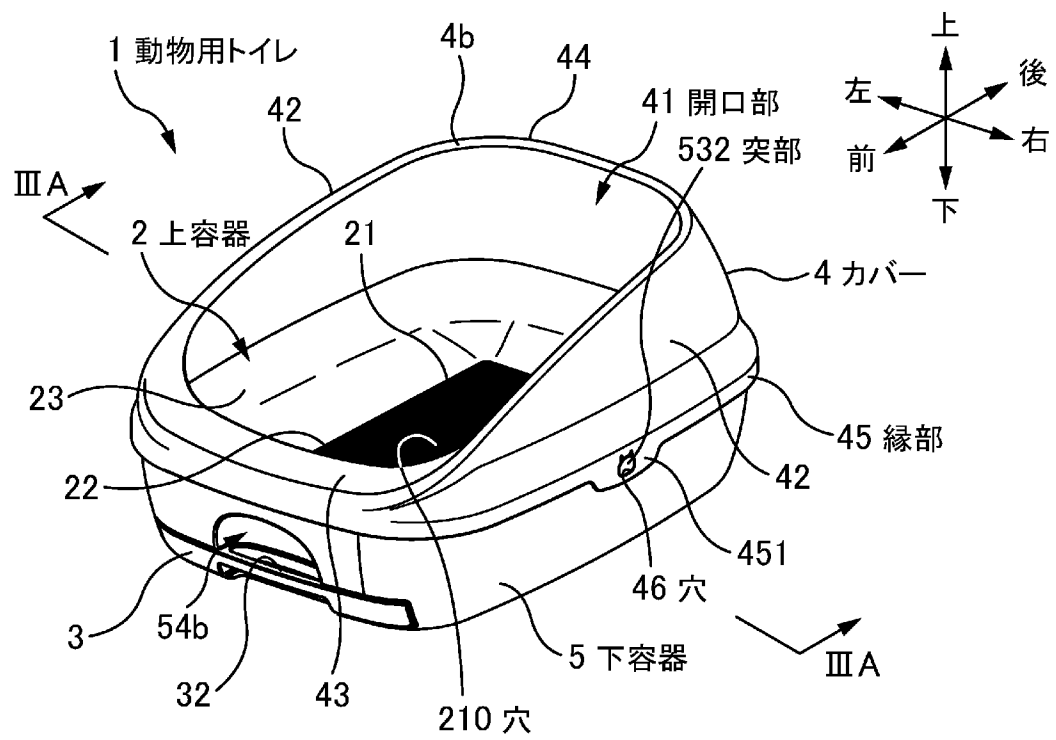
前記楕円の上部の曲率は、前記楕円の下部の曲率よりも大きいことを特徴とする動物用トイレ。

[請求項7] 請求項1～6のいずれか1項に記載の動物用トイレであって、前記穴は、切り欠きと繋がっていることを特徴とする動物用トイレ。

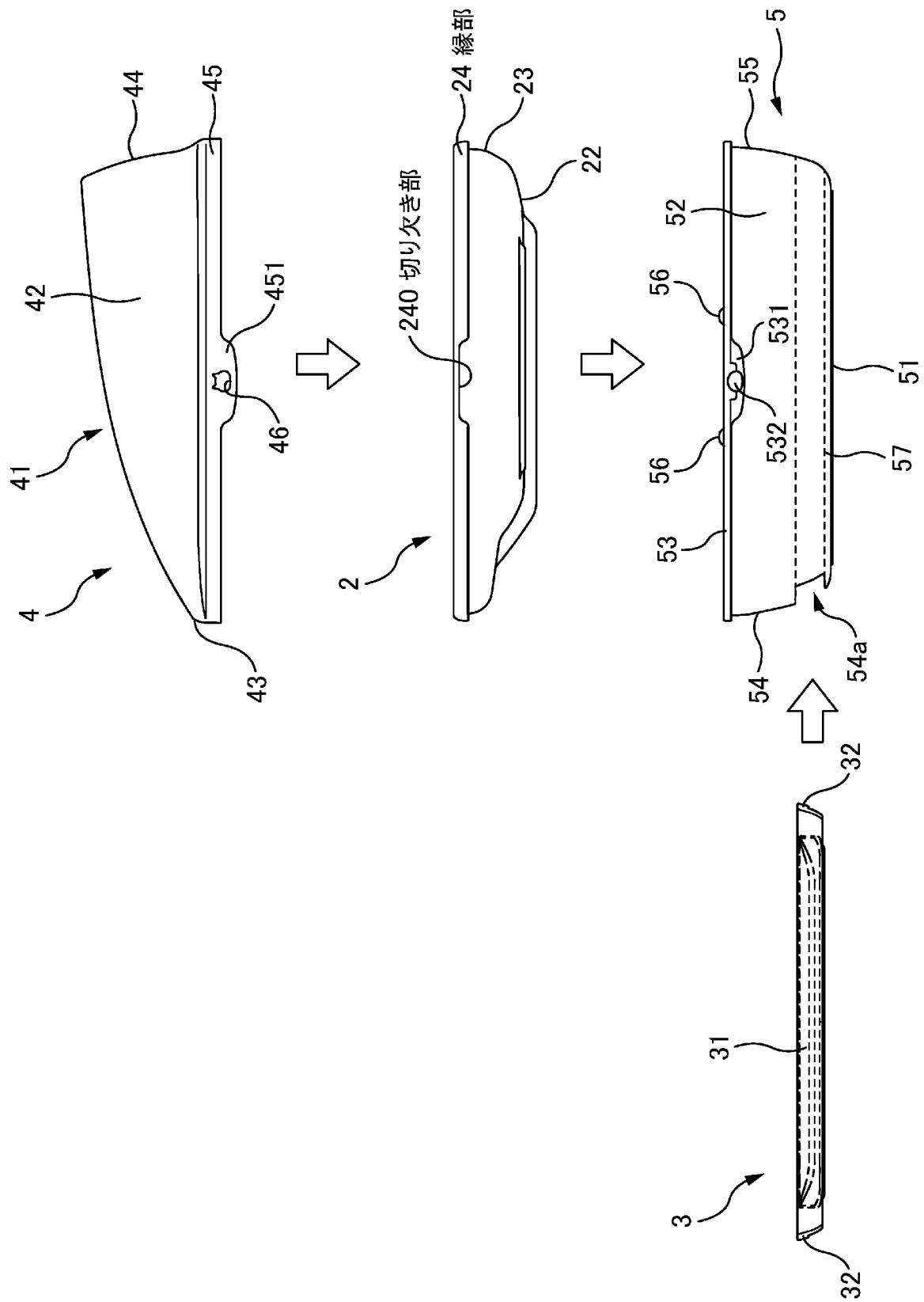
[請求項8] 請求項7に記載の動物用トイレであって、前記切り欠きは、前記穴の上部に設けられ、前記切り欠きの上端は、前記上容器の前記縁部よりも下方に位置することを特徴とする動物用トイレ。

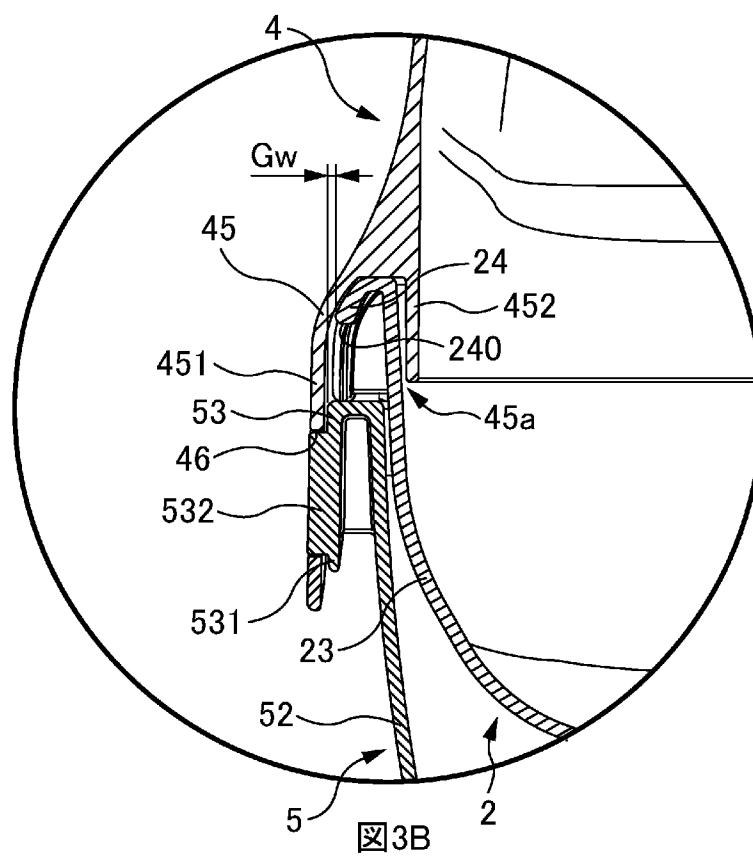
[請求項9] 請求項7又は8に記載の動物用トイレであって、前記穴に、前記突部が挿入された状態において、前記突部の輪郭が動物の顔の輪郭を表し、一対の前記切り欠きが、前記動物の耳を表すことを特徴とする動物用トイレ。

[図1]



[図2]





[図4]

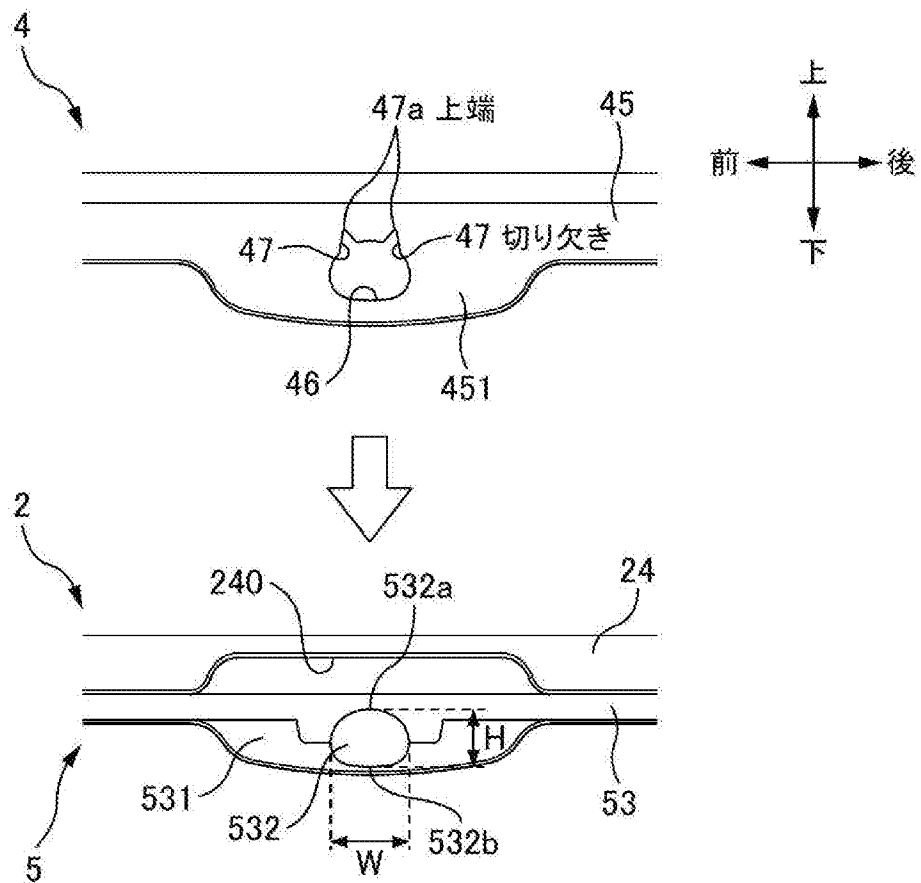


図4A

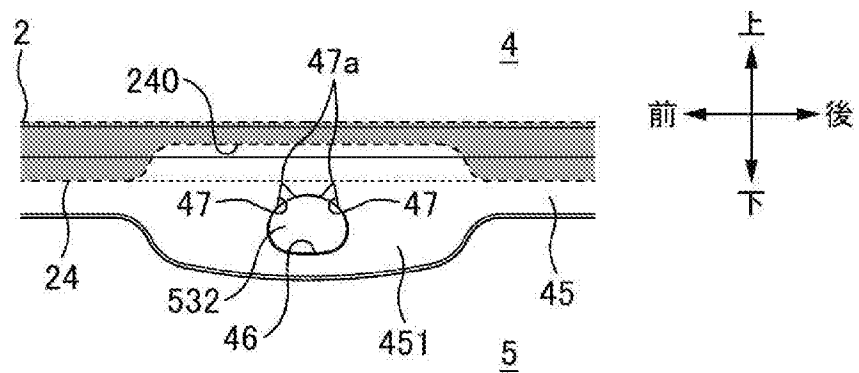


図4B

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2016/050234

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

A01K23/00(2006.01)i, A01K1/01(2006.01)i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

A01K23/00, A01K1/01

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2016
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2016	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2016

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 2013-17446 A (Uni-Charm Corp.), 31 January 2013 (31.01.2013), entire text; all drawings & US 2014/0150727 A1 entire text; all drawings & WO 2013/008532 A1 & EP 2732699 A1 & CN 103648271 A	1-9
A	JP 2009-11181 A (Uni-Charm Petcare Corp.), 22 January 2009 (22.01.2009), entire text; all drawings & US 2009/0000558 A1 entire text; all drawings & WO 2009/004925 A1 & EP 2163152 A1 & CN 101686648 A	1-9

☐ Further documents are listed in the continuation of Box C.

☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
25 March 2016 (25.03.16)

Date of mailing of the international search report
05 April 2016 (05.04.16)

Name and mailing address of the ISA/
Japan Patent Office
3-4-3, Kasumigaseki, Chiyoda-ku,
Tokyo 100-8915, Japan

Authorized officer

Telephone No.

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC））

Int.Cl. A01K23/00(2006.01)i, A01K1/01(2006.01)i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC））

Int.Cl. A01K23/00, A01K1/01

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2016年
日本国実用新案登録公報	1996-2016年
日本国登録実用新案公報	1994-2016年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
A	JP 2013-17446 A（ユニ・チャーム株式会社）2013.01.31, 全文、全図 & US 2014/0150727 A1, 全文、全図 & WO 2013/008532 A1 & EP 2732699 A1 & CN 103648271 A	1-9
A	JP 2009-11181 A（ユニ・チャームペットケア株式会社）2009.01.22, 全文、全図 & US 2009/0000558 A1, 全文、全図 & WO 2009/004925 A1 & EP 2163152 A1 & CN 101686648 A	1-9

C欄の続きにも文献が列挙されている。

パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの

「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの

「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）

「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献

「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

25.03.2016

国際調査報告の発送日

05.04.2016

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁（ISA/J P）

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官（権限のある職員）

竹中 靖典

2B

9507

電話番号 03-3581-1101 内線 3237